

# 研究名：特発性ネフローゼ症候群における感染症の合併頻度とその予後

## 1．研究の目的

特発性ネフローゼ症候群の患者さんは血清IgG値の低下やステロイド、免疫抑制薬の投与により、易感染性の状況にあると考えられています。しかし根拠となる文献は30年以上前に発表されており、予防接種の普及や新規薬剤の登場など医療提供体制の変化を反映していません。そこで私たちは現代の特発性ネフローゼ症候群の感染症の頻度とその重症度を明らかにし、患者さんやご家族へより適切な説明をすることを目指します。

## 2．研究の方法

**研究対象：**2010年1月～2020年12月に当院を受診した特発性ネフローゼ症候群の患者さん（他院からの紹介、対象期間以前に当院を初診され継続的に受診されている方も含みます）

**研究期間：**倫理審査委員会承認後～2022年3月

**研究方法：**2010年1月～2020年12月に当院を受診した特発性ネフローゼ症候群患者さんの患者情報を後方視的に検討します。

## 3．研究に用いる試料・情報の種類

患者さんの年齢、性別、基礎疾患、合併症、免疫抑制剤の種類と使用期間、リツキシマブの使用期間、抗菌薬や抗ウイルス薬・抗真菌薬の使用期間など

**患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報は調査対象ではなく、個人情報は保守されます。**

## 4．試料・情報の公表

結果は学術雑誌や学会などで公表されますが、その際個人を特定できる情報は一切公表されません。

## 5．研究実施機関

国立成育医療研究センター

## 6 . お問合せ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲  
内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さ  
んの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2021年  
4月30日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者さんに不利益  
が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立成育医療研究センター 教育研修センター 高尾 浩之

住所：東京都世田谷区大蔵 2-10-1

電話：03-3416-0181

研究責任者：

国立成育医療研究センター 教育研修センター 高尾 浩之